

製品事故情報の収集へご協力をお願いします。

製品事故や製品事故につながるおそれのある製品に関する情報を、NITEにお知らせください。報告・通知の様式及び詳細は、以下のアドレスでご覧いただけます。

<http://www.nite.go.jp/jiko/index10.html>

■生活・福祉技術センター大阪本部
〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前4-1-67
大阪合同庁舎第2号館別館 製品安全技術課
電話06-6942-1114 FAX06-6946-7280

■生活・福祉技術センター(東京)
〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-10
技術業務課
電話03-3481-1820 FAX03-3481-1934

■北海道支所
〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2-1-1
札幌第一合同庁舎
電話011-709-2324 FAX011-709-2326

■東北支所
〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台4-5-18
電話022-256-6423 FAX022-256-6434

■北関東支所
〒376-0042 群馬県桐生市堤町3-7-4
電話0277-22-5471 FAX0277-43-5063

■中部支所
〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸2-5-1
名古屋合同庁舎第2号館
電話052-951-1931 FAX052-951-3902

■北陸支所
〒920-0024 石川県金沢市西念3-4-1
金沢駅西合同庁舎
電話076-231-0435 FAX076-231-0449

■中国支所
〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30
広島合同庁舎第3号館
電話082-211-0411 FAX082-221-5223

■四国支所
〒760-0023 香川県高松市寿町1-3-2
高松第一生命ビルディング5F
電話087-851-3961 FAX087-851-3963

■九州支所
〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原2-1-28
電話092-551-1315 FAX092-551-1329

製品事故に関する情報は以下のアドレスでご覧いただけます。

NITE

製品安全分野
最新事故情報、特記ニュースなどがご覧いただけるほか、事故情報や社告情報の検索などが行えます。

<http://www.jiko.nite.go.jp/>

経済産業省

製品安全ガイド
新着情報、リコール情報、製品安全にかかわる政策情報などをご覧いただけます。

http://www.meti.go.jp/product_safety/index.html

nite National Institute of Technology and Evaluation
独立行政法人 製品評価技術基盤機構

生活・福祉技術センター 製品安全企画課
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎2号館別館
TEL 06-6942-1113 FAX 06-6946-7280

R100
100%再生紙を使用
リサイクル

PRINTED WITH
SOY INK
大豆由来のインクを使用

2007年11月

つい、うっかりが 思わぬ事故に!!

—製品を正しく使って快適な冬に—



事故 ナイト いいね

nite National Institute of Technology and Evaluation
独立行政法人 製品評価技術基盤機構

石油ストーブを消火せずに給油し、住宅火災

事例1

石油ストーブを消火せずに給油した際、カートリッジタンクのふたが十分に締まっていなかったために、漏れた灯油にストーブの火が引火して居間などを焼いた。(2006年2月 栃木県)

事例2

石油ストーブに灯油と間違えてガソリンを給油したために出火、住宅を全焼して1人が死亡した。(2004年12月 長野県)



石油ストーブに給油する際は、必ず火を消しましょう。カートリッジタンクのふたが完全に締まっているかどうか必ず確認しましょう。また、間違えてガソリンを入れてしまうと異常燃焼を起こしますので、絶対にガソリンは入れないでください。保管する際は、灯油と間違えないように、ポリタンクでの保管はやめましょう。

電気ストーブをつけたまま就寝し、住宅全焼

事例

子ども部屋で電気ストーブをつけたまま寝ていたら、布団が電気ストーブに接触して火がつき、住宅を全焼した。(2006年11月 愛知県)

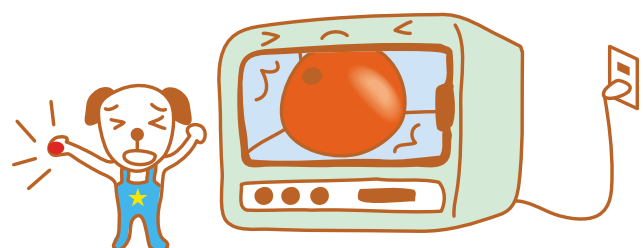


就寝する時は、必ず電気ストーブの電源を切ってください。周囲に布団など燃えるものがあると危険です。接触したり、直接触れていなくても出火する場合があります。

電子レンジ加熱式ゆたんぽが破裂し、手にやけど

事例

電子レンジで温めて使用するゆたんぽを電子レンジの自動モードで加熱したところ、容器が破損して中身が飛び散り、右手と右ひじにやけどを負った。(2006年9月 静岡県)



自動モードでの加熱はせず、取扱説明書どおりのレンジ出力と加熱時間を守ってください。容器が膨張・破裂したときは、レンジのスイッチを切って冷めるまで待ちます。慌ててレンジの扉を開けると高温の漏れた内容物でやけどを負う危険があります。

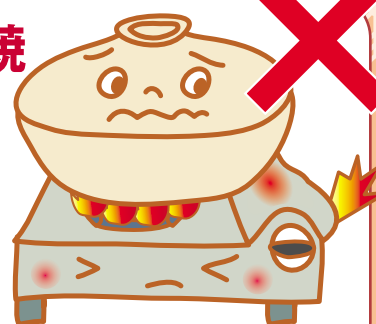
カセットこんろのガスボンベが爆発し、住宅全焼

事例1

カセットこんろに大きい鍋を使用していたところガスボンベが爆発し、カセットこんろの下に敷いていた新聞紙が燃えて住宅と物置を全焼した。(2004年7月 長野県)

事例2

カセットこんろにガスボンベを正しく取り付けなかったためガスが漏れ、漏れたガスに引火して住宅や倉庫を焼いた。(2006年2月 鳥取県)



カセットこんろを覆うような大きな鍋や鉄板を使用すると、ガスボンベが加熱され、ボンベ内の圧力が異常に上昇して爆発することがあります。また、カセットこんろ用のガスボンベは指定されたものを正しく取り付けましょう。指定外のガスボンベや取り付けが不完全だと、ガスが漏れて引火するおそれがあります。ガスボンベは必ず中のガスを使い切ってから捨てましょう。

除雪機で指を切断

事例

除雪機のエンジンをかけたままで、オーガ(雪を掻き崩し収集する装置)に詰まった雪を手で取り除こうとしたところ、突然オーガが回転し手を巻き込まれ、右手指2本を切断した。(2006年1月 青森県)



除雪機のオーガ部やプロワ部に詰まった雪を取り除くときは、必ずエンジンを切りましょう。エンジンを切ってもしばらく惰性で回転するので、回転が完全に止まったことを確認した上で、雪かき棒などを使って詰まった雪を取り除きましょう。

はしごから転落し、足を骨折

事例

自宅屋根の雪下ろし作業中にはしごが滑って外れたために転落し、左足などを骨折した。(2005年12月 山形県)



はしごは、柔らかい地面や凍った地面、段差のあるところに設置しないでください。安定した場所に立て掛けて、一人では使用せずに必ず大人の補助者がはしごを支えましょう。支柱から身体を横に乗り出すことも転落の危険があります。

電気あんかのコードがショートし出火

事例

布団に入れていた電気あんかの電源コードの根本がショートして出火し、毛布やシーツを焦がした。(2001年2月 茨城県)



電気あんかを収納するときは電源コードを本体に巻きつけないようにしましょう。また、電源コードは引っ張ったり、ねじったりしないように注意してください。電源コードの本体側の取り付け部分(コードプロテクタ)に負担がかかり、半断線してショートし、出火のおそれがあります。



ガス湯沸器で一酸化炭素中毒

事例

集合住宅の台所で3人が倒れているところを発見され、病院に運ばれたが、1人が一酸化炭素中毒で死亡した。(2004年12月 広島県)



小型ガス湯沸器を使用する時は、必ず窓を開けるか換気扇を回すなど換気をしましょう。換気が不十分だと不完全燃焼を起こして一酸化炭素が発生し、死亡に至るおそれがあります。



ガス機器を使用するときは必ず換気をしましょう。

ガスが燃えるには、新鮮な空気が必要です。換気が不十分だと一酸化炭素中毒を起こし、死亡に至るおそれがあります。

これは危険! 不完全燃焼のチェックポイント

- ◇使用中にたびたび火が消える。
- ◇炎の色が赤みを帯びて、輪郭がぼやけている。
- ◇機器の上部がすすなどで詰まっている。
- ◇機器の前面の塗装が部分的に黒く変色している。

※このような事があつたら、使用を中止し、販売店かガス会社に連絡しましょう。

一酸化炭素中毒事故による被害状況

一酸化炭素中毒による事故(火災を除く)の被害状況を見ると、全体の約4割が死亡に至っています。

